議題	第 15 回運営推進会議
日時	2025 年 8 月 21 日（木）　10:30～11:15
場所	デイサービス山風木
出席者	(順不同敬称略) 三島包括支援センター　Y1 様 デイサービス山風木利用者様ご家族　O 様(奥様)、M 様(Y2 様義弟) デイサービス山風木センター長 W1 デイサービス山風木統括　W2 デイサービス山風木主管　U デイサービス山風木　S (議事録作成者)　W1　(議事進行者)W2

会議の詳細

● ごあいさつ（センター長 W1）

～出席者のご紹介、本会議の趣旨（目的）について～

● デイサービス山風木の運営状況（センター長 W1）

● 事業所としての活動（センター長　W1）

● デイサービス山風木の活動（主管　W2）

写真を使って最近の活動が紹介されました。

【事業所報告】

1. 概要
   - デイサービス山風木は、認知症対応型地域密着型通所介護として、7 年前に開所。定員 12 名、登録利用者数は約 37 名（介護度 1～2 が中心）。
   - 姉妹事業所と連携し、三島市内で小規模・柔軟な対応を実現。事業所間の情報共有や人員交流により質の向上を図っている。
2. 利用者特性と支援方針
   - 認知症により記憶障害が顕著な方、身体機能が保たれているが見守りが必要な方が多い。
   - 特に男性利用者が半数近くを占めており、集団活動に馴染みにくい傾向もあるため、個別活動や園芸・散歩など自然な関わりの中での支援に力を入れている。
3. 活動・取り組み
   - 地域の環境を活かし、近隣緑地や寺院への散歩、お庭での園芸活動、お茶会、季節行事（お花見、郷土菓子めぐりなど）を実施。
   - 年 1～2 回の避難訓練（避難所：三島市立西小学校）、感染症対応訓練（新型コロナ、ノロ等）も実施。

- ブログを通じた外部への情報発信にも取り組んでおり、顔が写らない範囲で活動の様子を紹介している。

4. 職員体制・育成

- 3 事業所合計で職員約 27～28 名。国家資格取得や定期研修に取り組み、スキルアップとチーム連携を重視。
- ハラスメント・災害対応・感染対策など、時代に即したテーマでの職員教育を実施。

【参加者からの意見・課題共有】

■ M 氏（Y2 様の義弟）

- Y2 は一人暮らしで認知症（記憶保持時間 15～20 秒）。週 4 日デイサービスを利用しているが、1 日 20～30 回の電話が家族に入るなど、精神的負担が大きい。
- 過去には悪質な訪問業者による詐欺被害に遭い、契約書も残っておらず対応が困難。現在は防犯カメラ・録画機能付きインターホン設置など、再発防止に努めている。
- 自信が任意後見人となっているが制度の限界もある。認知症進行により、買い物や金銭管理も困難になっており、グループホーム入所に向けた準備と本人への意識づけを進めている。

■ O 様（利用者配偶者）

- 夫が前頭側頭型認知症を患っており、徘徊によるトラブル（他人宅や学校敷地への立ち入り）への対応に苦慮。
- 午後になると外出欲求が強まるため、本人の気を紛らわせる目的でドライブを行うなどの工夫をしているが、日常的な付き添いと見守りは大きな負担。
- GPS やスマホでの位置情報確認はしているが、持ち出し忘れなどにより完全な対策とは言えない状況。
- 地域住民の支援は限定的で、近隣との関係性の希薄さと見守りの不十分さが課題とされている。

■ 地域包括支援センター（Y1 氏）

- 地域によって認知症に対する理解の差が大きく、意識や連携体制のばらつきが課題。

■ デイサービス山風木（統括　W2）

- ご近所や商店、銀行・警察など、地域の多様な社会資源を活かす体制づくりの重要性を指摘。
- 「ヘルプマーク」「GPS タグ」「見守りステッカー」などの活用がもっと広がるよう、行政・福祉関係者の発信強化が求められる。

【まとめ】

- 認知症への社会的理解は一定進んでいるが、次の段階として地域ぐるみの支援体制の構築が不可欠であるとの認識を共有。

- 一人暮らし高齢者の詐欺・徘徊・火災・金銭管理などへの具体的支援策が求められており、デイサービス山風木としても情報発信や家族支援、地域との橋渡しに注力していく方針。
- また、グループホームやショートステイへの段階的移行など、生活の場の転換について、早期からの話し合いと情報提供が重要であると確認された。
- 地域住民への啓発やネットワークづくりを今後も強化し、地域密着型の事業所としての役割を果たしていく姿勢が示された。

次回は令和８年２月の開催を予定しています。本日はありがとうございました。